

海藻植え付け方式藻場造成ブロック



株式会社本間組

世界的な環境汚染への関心の高まりの中、我々が破壊している自然を少しでも改善し、いかに後世の子孫に残せるかが現在を生きる我々の責務であると思われます。特に陸の2.4倍の面積をもつ海洋が、地球環境をどのように救うことができるのか、真剣に考え行動に移すべき時期にきています。

それには、海洋の生物生産力や水質浄化および酸素生産などの能力を十分に発揮できる沿岸域を整備する必要があります。その中でも、海藻類の果たす役割は非常に重要になっています。

しかし近年、日本近海の環境変化による植食動物の増加や水質の悪化等により、海草を含む海藻群落は極端な減少傾向にあります。もはや拱手傍観して自然回復力を待つのではなく、陸上の植林と同様の処置が求められる深刻な事態になっています。

従来の藻場造成の方法では、付着海藻については自然任せの感があり、目的外の海藻が繁茂することも少なくはありませんでした。自然界では、珪藻被膜後1年生海藻が繁殖し、その後多年生海藻が繁殖するサイクルが普通です。

当社では、必要とする海藻を短期間にしかも確実に繁茂させることにより、藻場造成機能を高めることを目的として、多年生の大型褐藻類による藻場造成を提案してまいりました。その一環として、新潟県佐渡ではツルアラメを、宮城県ではアラメを利用して実験を行っています。

また、海藻の着定基盤を着脱可能で軽量化することにより、海藻群落から磯焼けした海域への移植や、水質が悪化した海域からの移動等が可能になります。

今後、この方法により藻場や海中林の維持を目的とするギャップ更新や備蓄礁への利用が大いに期待されます。

●藻場造成ブロック

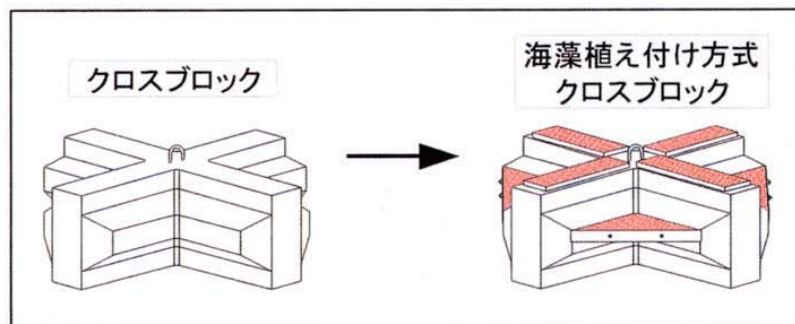
当社では、藻場造成ブロック「クロスブロック」を取扱い、多くの藻場造成事業で採用していただいております。

「クロスブロック」は、以下の特長があります。

- ・ブロック表面積が大きい。
- ・有効接地面積が大きいため、安定性がよい。
- ・ブロック1個当たりの占有面積が大きいので、使用個数が少なくて済む。
- ・製作・施工が簡単である。
- ・複雑な断面形状を有しているので、あわび・うに・さざえ等の生息場に適している。
- ・複雑な断面形状により海流がブロック付近で複雑に変化し、漂流する藻類が付きやすい。

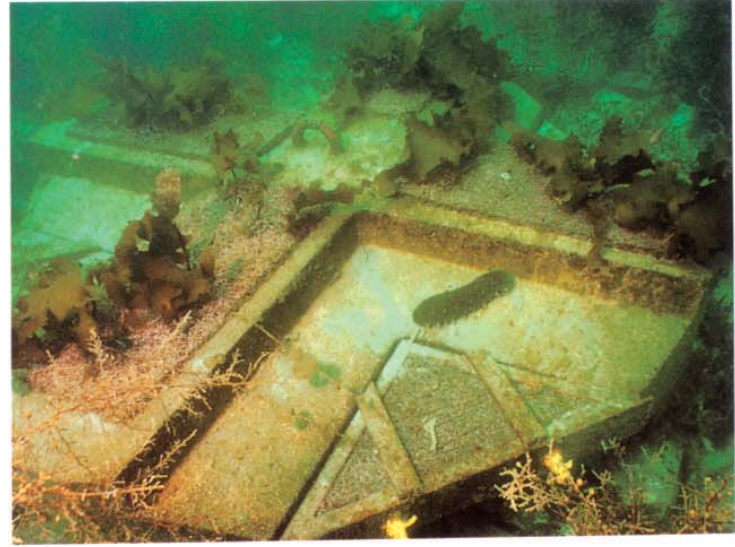
この「クロスブロック」に着脱可能な着定基盤を取り付けることにより、海藻類をより効率よく繁茂させ、種々の藻場造成機能に対応できるようにしました。

また、着定基盤はポリ塩化ビニリデン製のサラン樹脂でできている繊維で、軽量で耐久性のある素材であります。その着定基盤を「クロスブロック」にボルト・ナットで取り付けますので、水中での取付・取外しも簡単です。

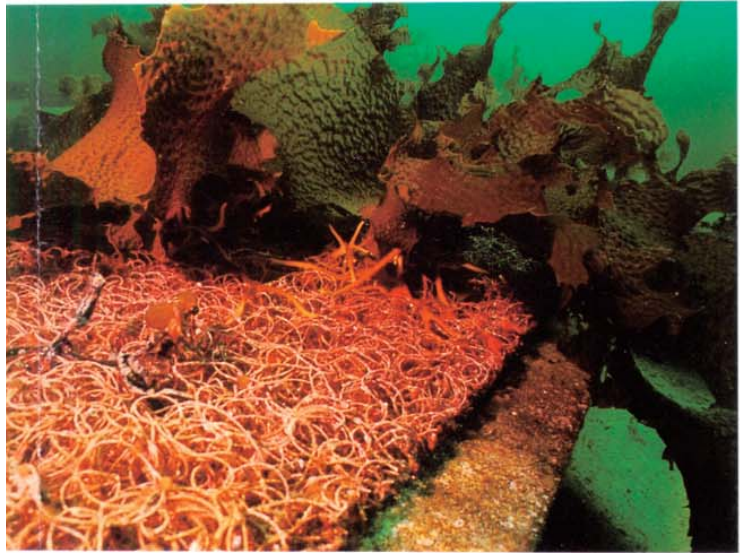




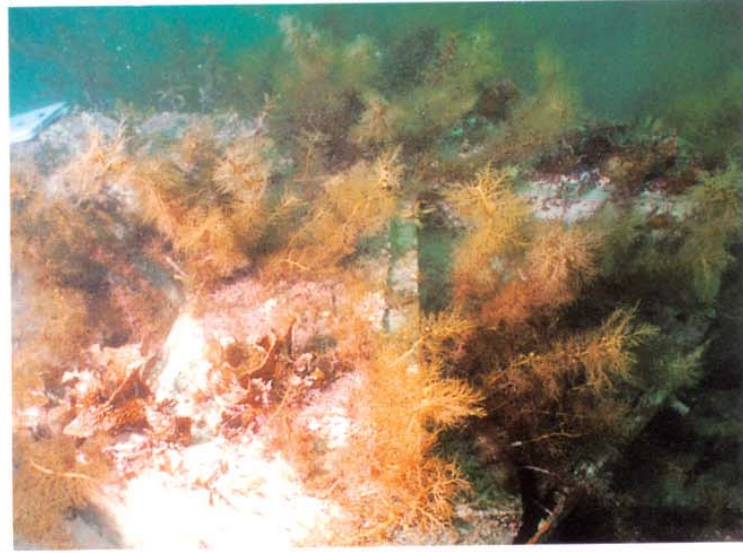
海藻（ツルアラメ）取付（H10. 11月）



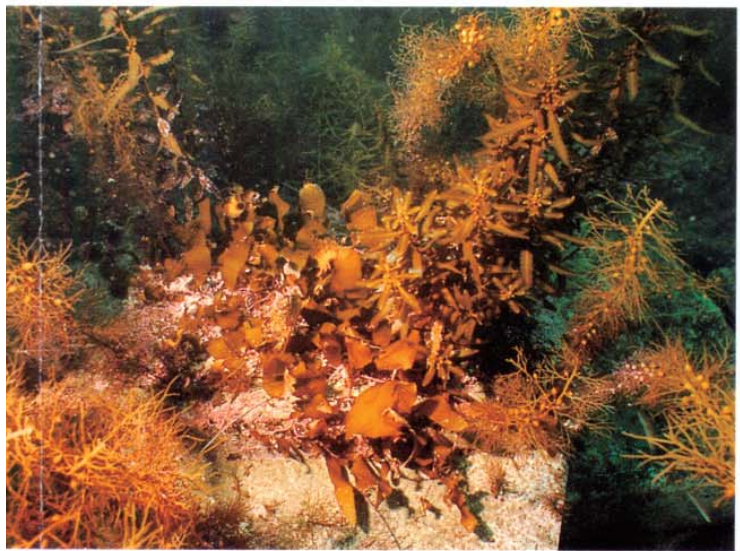
据付 5ヶ月後



据付 5ヶ月後



据付 2年後



据付 3年後



据付 3年後